

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 30

事業所番号	2672100027		
法人名	社会福祉法人 北星会		
事業所名	グループホーム天橋の家		
所在地	京都府宮津市字惣421番地の1		
自己評価作成日	平成31年3月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花		
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地		
訪問調査日	平成31年4月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅街に立地しており駅から近く近隣にはスーパーマーケット、喫茶店、医院などがあります。当事業所は2階にあり窓から見える山々の景色や季節を目で楽しむことができます。また特別養護老人ホーム、デイサービスが併設されており、行事を合同で行うこともあり、幅広い方との交流を行っています。地域住民との交流も行っており、近隣の保育所や地元老人会との交流、ボランティアや実習生の受け入れを行っています。食事は会議や行事の時を除いては基本的には3食すべて事業所内で調理しています。その他、生活の中で無理のない範囲でできる限り入居者の方が自分で行なえるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

宮津市の東部、JR宮津駅に近い住宅街にある、開設13年の1ユニットのグループホーム、緑豊かな広い敷地内に特別養護老人ホーム、デイサービス等があり、グループホームは2階、ホールも居室もゆったりと広い。昨年6月に就任した主任と職員はほとんどが常勤、介護福祉士の資格をもち、長く勤務している人が多い。お互いに理解しあい、口をそろえて「良いチームワークをしている」と言う。利用者は全員女性、80歳代から90歳代、要介護度が低く元気、園内の散歩、3食手作りの家庭料理とお互いのおしゃべりを楽しむ日々である。毎日日記を書く人、玉入れの玉を縫い保育園に寄付、お返しにもらった園児の作ったカラフルな籠を喜ぶ人、ジグソーパズルに夢中の人、水槽の魚に餌をやる人、職員の衣服を繕ってくれる縫物の上手な人、ゆったりと流れる日常生活のなかで、誕生日に自分の好きな献立、時にはハンバーガー、仕出し屋のオムライス等、食事のサプライズがある。良い季節には花見、ひまわり畑や銀杏並木、紅葉狩り等のドライブが大きな喜びである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営方針を事務所入り口、事務所内に掲示し、職員間で共有して実践につなげている。また、ホームページ、パンフレットにも掲載している。	法人の理念を踏まえ、管理者や職員が話し合い、「第二の我が家を目指します。地域とのつながりを大切にします。思いやりの気持ちを大切にします」というグループホームの理念を策定している。入口に掲示、パンフレットに明記、利用者や家族に説明している。職員はふだん話し合い、実践に励んでいる。ホームを我が家のような温かい雰囲気にし、利用者同士、利用者と職員がお互いに家族のように笑い合い、いたわり合うように接していることが理念の実践だと主任は言う。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設しているデイサービスなどのボランティア行事への参加を積極的にしている。また地域とは近隣の保育所との交流、ボランティア、、地元老人会などとの交流の機会を設けている。	利用者はふだんスーパーへ買物に職員と出かけている。地域の保育園の運動会に参加したり、利用者が縫った玉入れの玉を寄付、保育園児が作ったカラフルな籠をもらう。市の文化祭にみんなで作った大きな貼り絵を出品、その見物に行く。老人会の人と一緒に七夕の笹飾りを作っている。デイサービスで地蔵盆が開催され、参加している。地域の高校生がクリスマスに来訪、カードをプレゼントしてくれる。地域貢献としては、近くの小学生に認知症サポーター講座を開催、寸劇をしている。一人ひとりの利用者の自発的な地域生活は見られない。	利用者はグループホームを自宅として暮らしている。近くに散歩に行ってお気に入りの場所がある、犬の散歩に来ている人と会話が弾む、近くの喫茶店の好きなコーヒーを毎日でも飲みに行きたい等々、利用者一人ひとりが地域でどのような暮らしができるのかを支援することが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症あんしんサポート相談窓口を設置して、相談して頂ける体制を取っている。また市からの依頼を受け、市内の小学生を対象とした認知症サポート養成講座を実施して地域住民への認知症の理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、市職員、介護相談員、入居者の家族等の参加を得て2ヶ月に1回開催している。状況報告、情報交換しサービスの向上に活かしている。	家族、地域の自治会会長、民生児童委員、知見者として介護相談員、市健康・介護課が委員となり、隔月に開催、議事録を残している。ホームから利用者の状況や行事、職員研修、事故・ヒヤリハット等を報告した後、意見交換している。「家族会の回数を増やしてはどうか」という意見があり、検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者、主任が中心となり、直接、市役所に出向いたり、電話で相談する等している。	宮津市とは必要な報告や相談を怠らず、連携を保っている。市の介護相談員を受け入れ、毎月来訪、利用者の話を聞いてくれる。認知症ネットワークに協力、認知症RUN伴の取り組みに参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スロープ出入口にチャイムを設置し日中は鍵をかけない取り組みをしている。その他、言葉使いも抑制にならないよう心掛けている。また、毎月の会議内で身体拘束委員会として、確認及び半年に一度、内部研修を実施し外部研修会へも積極的に参加している	「身体拘束」をテーマに職員研修を年2回実施しており、職員はやむを得ず拘束する場合の3要件やスピーチロックについて認識している。2人の利用者について居室内にセンサーを夜間のみ設置しており、家族の同意をとっている。3か月ごとにカンファレンスをしている。ホームの玄関ドアは日中施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	平成31年1月30日開催の法人研修会に3名が参加し、その資料を基に職員間で内部研修を行った。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	平成30年12月14日開催の内部研修会に3名の職員が参加し、権利擁護についての資料を職員間で回覧し、周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	希望があれば施設の見学、概要説明を行った上で申し込みして頂いている。契約時には時間をかけて説明して理解を得ている(特に利用料金、退居に関して)。また面会時や家族参加の行事の際に質問、疑問に答えるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し意見を取り入れる体制や入居者に嗜好調査を行なっている。家族には年1回、満足度調査を行い、希望等を聞く機会を設けている。また調査結果は集計し家族に報告している。	面会に来る人はあるものの行事に参加する家族はない。年2回実施している家族会には3家族が来訪する。家族には毎月カラー写真の広報誌を送付、行事報告や新任職員の紹介等をしている。行事のお誘い、献立紹介等はしていない。利用者ごとの様子を書いた個別の便りや利用者のスナップ写真等は送付していない。「体をもっと動かしてほしい」という家族からの意見があり、テレビ体操を取り入れている。	家族は職員と共に利用者を支える車の両輪のひとつである。家族には職員異動や職員紹介をし、献立を知らせたり、食べに来てもらったり、行事のお誘いをして参加してもらったり等により、グループホームのふだんの様子を知ってもらうこと、グループホームの行事やそのほか運営に協力してもらうこと、以上の2点が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催されている事業所内の会議や年2回行う職員面接の中で主任を通して聞く機会を設けていると共に要望があれば職員と個別面談をし、直接聞く機会を設けた。	特養やデイサービス等併設事業所も含めた全体会議には主任が参加、各事業所との情報交流を図り、相互の取り組みや実績を学び合っている。グループホーム会議は毎月実施、行事や食事等運営の検討と内部研修をしている。職員は1~2人の利用者を担当、毎月実施のカンファレンスで利用者について話し合っている。会議では職員は積極的に発言、意見や提案を述べている。管理者や主任は職員の意見を聞く面談の機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回行う職員面接の中で主任を通して聞く機会を設けていると共に要望があれば職員と個別面談をし、直接聞く機会を設けた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人別研修希望調書を取り、職員のモチベーションの向上に努めるようにしている。感染症対策の研修については事業所内会議の場を活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社会福祉法人が運営するグループホームが加盟する協議会に入り、情報共有や研修会への参加、また近隣のグループホームとの情報交換等、サービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に話を聞くがそれだけでは分からないこともあり、入居されてからも、その都度、関わりが持てるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込時、面接時、入居時に話を聞いている。本人が入居されてからも家族には小まめに連絡をして様子を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族より話を聞き、希望、必要に応じたサービスを提供している。理容、美容の希望があれば、外部の理美容サービスに来所して頂き利用している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る限り入居者の方と共に行動し、良い関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には出来る限り面会に来て頂いたり、衣替え、食事会、大掃除への参加等をお願いしている。また受診については必要に応じて付き添いをお願いしており、共に本人を支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買物に出かけた際、自宅を見にいたり、生まれ育った所や懐かしい場所へドライブに出掛ける等、馴染みの場所へ行く機会を設けている。	利用者から「家に帰りたい」と希望があった時は職員が同行して家に行っている。「利用者が住んでいた家を新しくしたので元気なうちに連れて行きたい」と娘が希望し、利用者も行きたいと、新しい家に帰り、一泊して満足し、ホームに帰ってきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホール(共有スペース)で気の合う方同士が、それぞれの場所で、お話をしながら過ごしているが日々の中で居室などで一人で過ごす時間も大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居が決定した後も本人、家族に対して今後についての相談や支援を行っている。また退居後も、入所施設や、ご家族から現在の様子を聞く機会を持ち、再入居の希望などを伺い、積極的に受け入れも実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンス、ミーティングで本人を中心に考え、希望、意向の把握に努めている。希望や意向の把握の難しい方は職員が本人の立場になって考えている。	契約時に主任(ケアマネジャー)が利用者・家族に面談、グループホームの説明をすると共に介護や医療、それまで利用していた介護サービス等の情報を収集している。利用者の暮らしの様子を聴取している。グループホームでどんな暮らしがしたいかの意向は「できることがあったらする」「足腰は達者」等、記録しているものの、聞き方が浅く、何がしたいのか、好きなこと等は聞けていない。利用者の生活歴は担当職員は知っていることもあるものの情報量は非常に少ない。	長い人生を過ごしてきた利用者のグループホームでの暮らしを支援するためには利用者を深く理解することが欠かせない。出身地、父母や兄弟姉妹、子ども時代等生家のこと、現役の時の仕事や仕事仲間、趣味、友人、夫や妻の仕事、子どものこと等結婚生活、以上のような生活歴の情報を収集することが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人はもちろん、家族、在宅ケアマネジャー、以前の利用施設等から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況については毎朝と夕方の入浴時、バイタル測定で把握し1日の過ごし方等はケア記録、ミーティングで把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や定期的に行なっているケース会議にて家族から意向を聞き、介護計画書を作成している。カンファレンス、ミーティングにて職員間で情報を共有し、計画書は3ヶ月毎にモニタリングを行っている。	ケアマネジャーがアセスメントし、介護計画を作成、カンファレンスで職員の意見を聞いている。介護計画は身体介護の項目が多く、暮らしの楽しみ等の項目はレクや散歩等、利用者に共通の項目となっている。介護記録はバイタル、食分量、水分量、排泄、服薬、入浴等暮らしのデータと日勤帯と夜勤帯の時間ごとの利用者の様子を書いた記録がある。介護計画の実施記録はない。モニタリングは毎月実施しているカンファレンスの結果をまとめた記録があり、介護計画の評価ではない。	介護計画は利用者ごとに個別であり、利用者がしたい暮らしを入れること、介護記録はデータだけでなく、介護計画を実施したときの利用者の表情や発言、拒否があったときはその要因を書き、モニタリングの根拠となるようにすること、モニタリングは「介護計画」「実施状況」「利用者・家族の満足度」「目標達成度」「今後の方針」の項目で毎月点検し、介護計画の評価とすること、以上の3点が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンに個別に記録して情報を共有している。また夜勤者は引継ぎ表を作成して夜間帯の様子を日勤者へ伝達している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じて職員間で相談し対応している。また医療面に関しては併設施設の看護職員の協力やかかりつけ医に往診していただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受入を行い、お話相手、歌、手作り雑巾等、個々に合った支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居されてからも基本的には在宅時のかかりつけ医を継続していただいている。往診を利用されている方が多く、往診時に状況をかかりつけ医に伝え、情報の共有に努めている	利用者の入居前からのかかりつけ医が往診にきてくれている。歯科は必要になったときに訪問歯科医を依頼している。認知症は京都府北部医療センターに家族同行で受診しており、グループホームでの利用者の状態はサマリーにまとめ、医師に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護職員と連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は面会に行き様子を把握している。また退院に向けてできる限り、家族にも出席してもらいカンファレンスを行い、行えない場合には情報提供をお願いし状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員体制、設備面等で看取りはできないことを契約時に説明している。医療行為が必要になった場合は検討会議を持ち、状況を確認した上で家族と相談しながら他施設への転居に向けて話を進めている。	グループホームでの看取りはできないことを、契約時に利用者と家族に説明している。利用者が重度化し、医療処置が必要になった場合は病院や医師・看護師がいる事業所に移動してもらっている。いままでグループホームで死を迎えた利用者はいない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等にはマニュアルに従い対応している。また職員は数年に一度、普通救命講習を受講している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設と共に年2回、昼夜を想定しての火災避難訓練、水害避難訓練を行っている。その他、災害時用の非常食を常備している。事務所内にはハザードマップを掲示し、確認している。	火災、土砂災害、地震についての避難訓練を併設事業所と合同で年2回実施している。水害に関してはグループホームは建物の2階であるため安全と考えている。備蓄を準備、ハザードマップは掲示し、職員は危険箇所を認識している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自室のドアには鍵が付いている。その他、声掛けもプライバシーを損ねないような声掛けをしている。	利用者に対して職員は年配者としての尊敬の念を忘れず、なれなれしくならないような対応、声掛けをしている。トイレ誘導は小声で、個別の話をするときは離れた場所で等、利用者のプライバシーに配慮している。暮らしの中で利用者に自己決定してもらいたいと、飲み物はお茶、コーヒー、紅茶、牛乳等を用意している。服も自身で好きなものを選択、お化粧品をする人もいる。へやーは訪問美容師が来訪する。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から希望などを聞いている。また、日々の生活の中で可能な限り自己決定して頂く場面を作り支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各々、テレビを見たり、雑誌を読んだりして一人一人のペースで過ごされている。また夜間テレビを観たい方のお部屋も遮光し、他利用者への妨げにならないよう工夫している。日々の中で話を聞く機会、共に過ごす時間を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昔からの行きつけの美容院でのカットや訪問理美容でカットを行なっている。また、個人で口紅、ファンデーション、好みのシャンプー等を持ち、各々身だしなみができる様に支援している。衣類の着こなしの確認、声掛けも行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には誕生者の希望を聞き、好物を昼食のメニューにしている。また、嗜好調査を行い把握に努めている。食事準備、片付けは入居者の方と共に行っている。ホットプレートを使用して皆さんでお好み焼き、たこ焼きや、おやつにプリンや白玉団子を作る事もある。	献立は職員が交代で立て、栄養士の資格をもった職員がカロリー値や栄養バランスを点検している。食材の買物も職員が交代で近くのスーパーに行き、3食手作りしている。地元産の食材を中心に季節感のある献立である。お正月のおせちやひな祭りのちらし寿司等、行事食もある。利用者の誕生日にはその人のリクエストをつくり、みんなで食べてお祝いしている。ホールに食卓を細長く並べ、職員も一緒に会話しながら食事を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の資格を持った職員のアドバイスや料理本を参考にして栄養バランス等を考えて献立を作成している。その他、入居者の方の体調、咀嚼状態に合わせ対応したり、水分補給については声掛けを行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きと番茶でうがいを行っている。また必要に応じて就寝時には義歯洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立の方が殆どではあるが、1人ひとりの排泄パターンやサインを見逃さないようにし引き継ぎ等で情報を共有している。また必要に応じて、かかりつけ医にも状況を報告している。	ほとんどの利用者は排泄の自立をしており、尿意があり、場所を知って自身でトイレに行っている。他の人はリハパンとパットを使用し、排泄パターンを把握している職員が声掛けしトイレ誘導している。薬に頼らない排便のために乳製品や食物繊維の多い食材を使っている。時には屯用の下剤を使用することもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	御飯に寒天を入れたり、毎日ヤクルトを摂取したり朝には牛乳、バナナ、ヨーグルトを摂取している。また食物繊維の多いものの摂取を心がけている。その他、体操やレクリエーションを行い、適度に体を動かす機会を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回のペースで入浴していただいている。順番は出来る限り希望を聞き、拒否のある方へは、介助職員を変更したり、様子を見ながら声掛けを行っている。また希望により同性介助も行なっている。	浴室はゆったりと広く、明るい。ユニットバスを据えている。概ね夕方の時間帯に利用者に声掛けし、毎週2回の入浴を支援している。ときに「入りたくない」という人には声掛けを工夫したり、別の日にする等で対応している。利用者は自分で洗える人が多く、介助は背中等を洗うくらいである。「ああ、いい気持ち」と、利用者は入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息は本人の希望で自室やホールのソファでくつろいで頂いている。入居者の方からは「部屋に戻ってもええか」と言う言葉も聞かれ、その時の状況に応じて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬資料は個別にファイルに綴じて保管し必要に応じて確認している。服薬の準備については職員2名で準備し他の職員1名が確認する3名体制で行っている。下剤についてはかかりつけ医の了解を得て、様子をみながら調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日、クリスマス会&忘年会や季節に合った行事、活動を行い支援している。その他、貼り絵や縫い物を作成し地域の文化祭へ出展を計画している。また天気の良い日は外へ行きたいと言われる方もあり、散歩をするなどの気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買物に職員と一緒に出かけている。また、春、秋には遠足に行き四季を楽しむ機会を設けている。また月に2度、関わり日を設けて散歩、ドライブ等の外出も行っている。その他、買物の途中で自宅付近や本人の馴染みの場所に寄り、個別の希望に添うようにしている。	利用者はt冬季の2か月を除いて、ふだんは緑が多く広い園内を散歩している。職員がスーパーに食材等を買いに出發する時に一緒に車に乗っていくこともある。花見、ひまわり畑、いちよう並木、紅葉等、季節ごとに宮津市内、与謝野町、弥栄町、岩滝町、大江町等にドライブしている。春の遠足はうおっち館に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については家族、または職員が行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族に電話していただいたり家族から掛けていただいている。また、家族から年賀状、ハガキが届く入居者の方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは大きな窓があり明るくゆったりと過ごせるスペースとなっている。所々にソファがありゆっくり座ったり畳の間で横になったりするスペースがある。また、季節を感じれるように花や季節の物(雛人形・クリスマスツリーなど)、ちぎり絵を飾っている。	中央にある居間兼食堂(ホール)は広々としており、大きな窓から四季の風景が目に入る。食卓と椅子、大きなテレビ、2か所に応接セットやソファ等利用者の居場所となっている。大きな掛時計と予定を書いたカレンダーが時の見当識に対応している。片隅に食器棚や冷蔵庫のあるオープンキッチン、一方の片隅には床の間やふすま付きの押入のある6帖の畳コーナーがあり、ついたてや座敷机、座布団を置いている。床の間には掛軸、京人形を飾り、昔ながらの日本間である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前や廊下にソファ、こたつ、食事用の椅子があり個々に好きなところに座りゆっくり過ごしていただいている。また好きな事ができる様、本、新聞、パズルが置いてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し以前、自宅で使用していたものを持って来て頂く様に工夫している。家族の写真やタンス、テレビ等各々思い思いの品を持って来ていただいている。居室の出入口にはネームプレートを設置し飾り等も工夫している。	居室の入り口にカラー紙で作った、利用者ごとに異なる花の飾りをつけ、柔らかい雰囲気になっている。居室はかなり広い洋間、奥に大きな窓があり明るい。ベッド、枕頭台を備えている。利用者は使い慣れたタンス、椅子、テレビ等を持ち込んでいる。ベッドの上のふとんや衣装掛けに吊るし洋服やコート類が利用者らしさを示している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は広く、段差もほとんどない為、老人車の方等も安心して生活していただける。またコールや手すり等も設置して安全面も配慮している。トイレ、風呂場には案内板を設置し入居者の方に分かるようにしている。		